

部隊略歴

患者輸送カ七三川隊
別席六〇三三部隊

期間会戦及斗序稱	主要作戦及斗行動業務の概要
自昭一八、六、六 至同 一〇、三一 カニ次ヒスマルク戦	昭一八、五、九 搜索カ四連隊に於て編成完結 同 六、六 手品港出發 同 同日 カ一八軍司令官の隷下に入る 同 七、七 ラバウル 上陸 同 カ六四兵站地区隊長の指揮下に入る 同 カ一〇患者輸送隊長の指揮下に入る 「ラバウル」に任りて同地附近の陸上並海上後送患者護送勤務に服す 昭一八、七、三一 カ六四兵站地区隊長の指揮下を脱す 同 カ四船舶輸送隊長の指揮下に入る
自昭一八、二、一 至同一九、三、三四 カニ次ヒスマルク戦	昭一八、二、一 剛方作命カ五四二号によりカ一八軍戦斗序列より除かれ カ八方面軍戦斗序列に編入 昭一九、五、一〇 剛方作命甲カ七五二号に依り「マタラタ」に於て駐在者護送勤務に服す

21の外

東部ニ...

<p>自昭一九三、三五 至同 一〇、三一 次三及ヒスマルク、獄</p>	<p>自昭一九二、一 至同二〇、四一四 次四及ヒスマルク、獄</p>	<p>自昭二〇、四一五 至同 八一五 次五及ヒスマルク、獄</p>
<p>患者護送勤務に服す</p>	<p>自昭一九二、三六、至同二二、三八、才三八師団長の指揮下にありて前任務履行 昭一九二、三三、才一患者輸送隊長の兼下に入りしめらる</p>	<p>患者護送勤務に服す</p>

(305)

1223

患者輸送オ七十六小隊部隊略歴

期間今戦々ヨ呂稱	主要作 戦 々 々 斗 紫 務 行 動 概 要	自昭一八、七一 至昭一九、三二四 オニズビスマルク戦
<p>「ミールブリック」島に於ける患者輸送反「ボーンヒル」島「エレメン」 「ラバウル」患者護送、及田軍医少尉以下一五呂薙 凡にて患者護送中敵機の襲撃を受け同乗船員三呂即死 救呂負傷当隊員一呂負傷の惨状なりしも同軍医以下の 沈着なる行動応答の処置により護送患者中一呂の死傷 者も出さず且つ此の戦斗を非常に有利に導き敵機を直 退せしむ依つて輸送指揮官より感謝状授与せらる</p>	<p>前任務を承行 小川軍医以下一〇呂長保凡にて患者護 送中敵機の襲撃を受け不幸とせんとするや同軍医以 下必死の努力を以つて患者を機上陸せしむ以つて全 員上陸すると同時沈没す、此の間一人の死傷者を出さ ざりしは軍医以下の臨機応答の処置と努力の賜なり 根岸軍医以下二四呂は「ラバウル」より「パラオ」へ患者三〇呂護</p>	<p>敵機直撃 一呂負傷者</p>

<p>自昭一九三二 至同一九四三 ガ号作獄参加</p>	<p>送す</p> <p>アイボプキートリマウ洞五ヶ前に忠高收容所を開設し患者の收容治療^法に任す</p>	<p>取取患者 一三二九 名</p>
<p>自昭一九四三 至同一九四五 オスミスマルク 賦</p>	<p>戸參謀長の依頼による依然現任地に於て現任者の統行 六、三 各收容所ヘトリウ收容所は七、三 臣統行ヘ閉鎖、 田浦に帰還 陸上及「ヨーク」島「ラバウル」向の患者護送と共に陣地の 構築及農耕に実施す</p>	
<p>自昭一九四一 至同一九四四 オスミスマルク 賦</p>	<p>前任務統行</p>	

第二十四野戦防疫給水部部隊略歴

<p>期間全戦々斗呂稱</p>	<p>主要 作 戦 々 斗 行 動 業 務 概 要</p>	<p>喫 耗 等</p>
<p>自昭一七、二、二六 至同 一八、四、三〇 南 太 平 洋 戦</p>	<p>熾烈なる敵爆撃下「ラバウル」にありて防疫並防疫給水及検疫業務に従事す 板倉中佐以下 約 一八九名 「ガダルカナル」作戦参加 早川大尉以下約四〇名 「ニューギニア」作戦参加 森 中尉以下約三四名</p>	<p>「(病)死 一八 〃 三三</p>
<p>自昭一八、五、一 至同 一〇、三、一 オーストリアマルク戦</p>	<p>引続き「ラバウル」に在りて防疫並防疫給水業務に服す 板倉中佐以下 約 三二六名</p>	<p>「(病)死 二</p>
<p>自昭一八、二、一 至同 一九、三、二四 オーストリアマルク戦</p>	<p>「ラバウル」及「田ノ浦」に在りて前記業務続行 粟川中佐以下 約 四七六名</p>	<p>「(病)死 二</p>

22 の 外

表 部 二

其 の 二

自昭一九三三、三五 至同 一〇、三一 カミ及ヒスマルク職	「田ノ浦及ヨコホ」に於て業務統行 黒川中佐以下 約 四八六名	戦病死 四
自昭一九二二、一 至同二〇、四、二四 カミ及ヒスマルク職	「田ノ浦及ヨコホ」に於て業務統行 黒川中佐以下 約 三九四名	
カミ及ヒスマルク職	「函南台及ヨコホ」に於て業務統行 黒川中佐以下 約 三九四名	戦病死 一
昭二一、五、一六	復員 完 結	

(309)

1227

第二十六野戦兵器廠略歴

期間 会戦 マ 斗 呂 稱	主 要 作 戦 マ 斗 行 動 業 務 概 要	燻 耗 等
<p>自昭一七三、一〇 至同二八、五、一 南太平洋戦</p>	<p>廠は昭一七、一三三〇軍令陸甲九六号に基き昭一七に於てオ二 一、オ三三、オ三三、オ三四の各兵器廠反オ一六師團より 差出しの兵力を以つて其の編成を完結す 備成定員一四〇八名 廠長諏訪部隊を指揮し昭一八、二六昭南出發 途中同年一 一六、南洋に於て敵米潜水艦の魚雷攻撃を受け八四名の戦 死者を出したるも其の主力は昭一八、三、一八「ラバウル」に上陸 加八方面軍司令官の指揮下に入り本廠を「ラバウル」に、支廠を 「シヨムブイト」に、出張所を「ガシルカール」「モギギア」「ラエ」「マタン 「ウエワク」に開設し「ラバウル」「ソロモン」群島「モロギラ」方面、各部 隊の補給、兵器移動修理業務に従事す</p>	
<p>自昭一八、五、一 至同二八、一〇、三〇 オ一六「スマルク」戦</p>	<p>廠は又暹の軍需資材、特に兵器彈薬の揚陸作業並補給業務 に従事する外オ一線各部隊に兵器移動修理班を派遣し之が 修理に任ぜしむ</p>	

	<p>自昭一八二、一 至同一九一、三〇 第三、三怒とスル 戦</p>
<p>特に八日「ムン」方面火砲修理班都凡中尉以下一五名は克く之が任務を先遂、帰途「ペラペラ」節血海に於て都凡中尉以下一の呂戦死を遂げたるは遺憾なり其の他「ミシギニア」谷出戦前を閉散する尋兵器業務は策激又岐＝亘りたり</p>	<p>廠は依然前任任務を続行すると共に兵器彈藥の整備、格納に重点を指向す、此項漸く敵威の空襲、熾烈となり 之が防空対策に廠は全力を以つて兵器格納洞窟構築作業に従事す 昭一九、二、樺歩兵オ一大隊臨時編成せられ 本内少佐以下一六七名、オ三八師団に、又豊城中尉以下一六八名、オ一七軍に転属せるは廠業務遂行上大なる支障を來せるも廠長以下定く必死敢闘、廠業務遂行に努力し其の成果見るべきものありたり</p> <p>然れ共敵機の來襲による軍需品資材、特に彈藥の損耗も亦相当數ありたるは如何ともしがたし</p> <p>七日本廠を小森山地区に殺斃し「ラバウル」に支廠を設く</p>

自昭一九二二、一
至同三〇、八一四、
才四、五、六、七、八、九、

廠は依然前任務を履行する傍ら特に必勝行争先遂のため
訓練並現地自活に鋭意精勵從事す
又彈藥の調製舊 創意兵器の研究 特に爆彈砲の創意研
究並に之が完成は單作戦に寄与する迄極めて大なりき
其の他黒色川粒漿の製造対爆雷の製作砲兵器の改修等
其の業務は益々策教を極めたるも克く廠本表の任務と併
行之を先遂し方面軍の作戦行動に遺憾なくからしめたるは
寡兵走く廠長を核心として必勝取斗の成果を期し軍司令
官の意図を徹底見現せり

23
の
外

東
部
二
三
ア

具
の
二

第六野戦自動車廠略歴

<p>期間 自昭一七、三六 至同二八、四三 朝岡令戰斗君薦</p>	<p>主要任務 及行動業務の概要</p>
<p>自昭一七、三六 至同二八、四三 朝岡令戰斗君薦</p>	<p>一、廠は一七、三一、二〇。編成完結。廠長大佐高屋守三郎以下一、六六。召付リ。一八、二、四。廠長大佐高屋守三郎。副官中尉三宅忠雄。帶同「ラバウル」に到着。既に「オニ」野戦自動車廠。オニ校勤修理班長中尉。並野團長以下一九二名を掌握。方面軍自動車廠たるの性格のもとに廠業務を開始し方面軍管下自動車、戦車、索引車の修理、補給全部品材料及燃料の補給を担任す。</p>
<p>自昭一八、五一 至同二八、四三 「オニ」野戦自動車廠</p>	<p>一、廠は依然本部を「ラバウル」に。補給中隊を辻崎に修理中隊及勤務中隊を田浦に位置せしめ前任務を続行せしむると共に空襲を顧慮し防空施設に重実を向せしむ。</p>
<p>自昭一八、二一 至同二九、三三 四</p>	<p>一、空襲の激烈化と糧米を顧慮し燃料の主集積場を四南台に設定し補給中隊をして之が設備並に集積を実施せしむ。 其の要領は五。米自隔一。〇。推廣とし約五。〇。〇。中格納を準備せしむ。</p>

<p>自昭一九二一、一 至同二〇、四一五 才三次ビスマルフ軌</p>	<p>一、廠は車面の現況に鑑み各部隊の兵器保將校の合同を求め之が対策を講じ且廠長以下各関係幹部を動員し各部隊を巡回指導し修理方法必要部品の取得、其の他車面は更新に關する凡ゆる対策を講じ低下を防止せり</p>
<p>自昭一九二一、一 至同二〇、四一五 カ四次ビスマルフ軌</p>	<p>一、廠本部は依然として回南台に在りて各中隊能力を統合し引籠き索引車の整備、新に命ぜらる之がため廠は新に機甲班を編成し本部直轄とし各中隊の技術工、工作班を統合使用し 鑄造、施磁等の能力を廠高に發揮し修理用部品を製作し整備に支障を からしむるを得たり</p>
<p>自昭二〇、四一五 至同二〇、八一五 才五次ビスマルフ軌</p>	<p>一、廠は引籠き軌車、索引車の緊急大整備を施行五月末を以つて概ね完了せるが、方面車は更に自動車の大整備を企図し約一、〇〇〇両の沃軌甲車両を次行す 之が機甲班各中隊の能力を假高度に統合發揮し月三〇〇両を目途とし之が整備を次行す 二此の自依然 廠本末の補給業務、酸漿、水素、硫酸、ブレイキ油の製造、製材、反束、軌を統行更に車令に基き対軌車、軌斗、対空機、軌斗の訓練を</p>

その内

（素部ニニギハヤヒノニ）

	冊二、五、三二	
	彼長免結	実施し又自活農耕確立に次歟準備——全く完了せる時ニ、八、一五、 遂に終歟と行ふ

1891

(315)

1233

部隊概要

第二十六野戦貨物隊

<p>期間今敏々斗君稱</p>	<p>主要作戦々斗行勅業務の概要</p>	<p>損耗荷</p>
<p>自昭一七、二二ニ〇 至同二八、四三〇 南太平洋 戦 欠、ソロモン 戦 欠、ミッドウェイ 戦</p>	<p>一、昭南に於ける編成業務 二、「マニラ」昭南、瓜哇「パラオ」に於て輸送業務 三 昭南より「パラオ」への兵力輸送途中潜水艦の襲撃を受け輸送船一隻沈没此の應對潜艦斗参加 四、昭一八、三、一八各方面よりの主力果結尔后軍需品の屬塔東廣管理、補給業務に従事す 五 特記すべき業務として初期に於ける東部「ミッドウェイ」反カタルカナル島に対する前送業務を行つた へ潜水艦輸送用浮沈ドラム缶の製作 六、「ラバウル」本廠、赤根支廠「コッパ」支廠「ブーゲンビル」支廠「ガタルカナル」島出張所（二八、一閉鎖）前送補給機関 「ウエワ」 「マキン」 出張所 前送補給機 「パラオ」支廠 輸送連絡機関</p>	<p>八名戦死</p>

24
の外

東部ニミッドウェイ

其の二

<p>自昭一八、五、一 至同一九、三、二四 オニクビスマルク獣 カニクソロモン 獣</p>	<p>自昭一八、五、一 至同 一〇、三 オニクビスマルク獣 オニクソロモン 獣 オニクミミヤア獣</p>	
<p>一、内地よりの追送車用品途絶のため主として保有車用品の管理、保全、補給業務に従事す 二、対空襲処置として密林内に洞窟を掘削し車用品を分散集積す 三、農場、牧場の至営による生糧品の補給、漁撈による水産品の補給</p>	<p>一、車用品湯浴、床寝、管理、前送業務に従事 二、漁撈による水産品の補給、牧場至営による畜産品補給 三、「ウエワク」「マタン」出張所はオニク野獣貨物廠に継承（八、五、二五） 四、熱地自活要員の到着により農場開拓、製材所開設 農産品、木材の補給</p>	<p>「カビエン」支廠——主として「ニアイルランド」牧場経営 水産産加工 「ツルブ」出張所——補給獣庫</p>
<p>一 君歿死</p>		

(317)

1235

	<p>自昭一九、三、二五 至同一九、一〇、三一 カミズヒスマルク戦 カミ次ソロモン戦</p>
<p>空襲逐次猛烈となり、漁船の損害甚しく遂に出港不可 能に至る、地味船に移動す 四 「ツルブ」(ナタモ)を含む)出張前閉鎖、出張前要員が号 作戦参加</p>	<p>一、米島防空対策(昭二九、三、二五—同四、二一)軍需品の損 害を最少限に止むるためカミ三八師団長の指揮下にス しめられ軍作戦命令に基き軍需品の徹底的疎開洞窟格 納を実施す (カミ三八師団長賞詞を受く) 二、「ココボ」支廠は「クラナクネイ」支廠に移る 三、軍需品管理、保全、補給業務 四、現地生産の強化(農産物の強化のみならず、各方面技術 者の勧奨により醸造、製油、製菓、製糖、製紙等の研 究生産を実現し現地自活の確立に成功す 五、「ブーゲンビル」支廠の転出(カミ七師団下に入る) 六、「カビエン」支廠閉鎖 七、「パラオ」支廠の転出(航空隊部隊に併合)</p>

	自昭二〇、四、一六 至同二〇、八、一五 カ五次ビスマルク賦	自昭一九、二、一 至同二〇、四、一五 カ四次ビスマルク賦
	同前	一、事帯區管理、保全、補給業務 二、現地生産の推進、現地生産品補給 三、対上陸作戦陣地の構築へ自隊自衛の各種工事施設並に 匪作戦支援陣地構築へ参加

(319)

1237

第八方面軍「マリア」工作隊略歴

年月日	履歴
昭二八、七、一四	部隊長軍医大佐 渡辺 建以下幹部へ佐官一、尉官一、カ八方面軍司令部付として発令 昭二八、八、上旬「ラバウル」着「マリア」工作隊編成着手
昭二八、一〇、二九	「パラオ」に於てカ八方面軍「マリア」工作隊へ區稱名、剛オ七九六。部隊利根部隊へ編成完結、内人員の主力へ約三分の三本都「エドギア」「ウエワク」に向 ム二八、一一、三「パラオ」出港
昭二八、一一、九	カ一八軍「マリア」工作隊主力准君軍医少佐以下約一六〇名「ウエワク」上陸 約一〇〇名は隊長等領一八、二、三「ウエワク」上陸
自二八、一二、二五	カ八軍「マリア」工作隊、一部朝倉軍医少佐以下八六名、カ四一師団配属 (後半軍医等)となり「ウエワク」附近カ一八軍各部隊「マリア」予防作業に 従事す
自二九、一、一	主力半部隊准君少佐以下約八〇名「ハンサ」に前進、カ一八軍「マリア」予防作業 に従事、五月陸路「ウエワク」に転進
至二九、四、	全員「ホイキン」に集結待機
昭二九、五、上旬	

自昭一九五旬
至同一九六上旬
自昭一九六上旬
至同一九八中旬

昭二〇一三三

於「ポイキン」カ九〇兵站病院勤務機

朝倉少佐以下六〇名「ダクダク」に前進、カ九〇兵病長、林中佐の指揮下に於て病院勤務。一九八月中旬朝倉少佐以下三六名軍命令によりカ一八軍司令部に勤務赴任。桂君少佐以下主力「ポイキン」に在りてカ九〇兵站病院、カニ半部と在り病院附設（一九七五）

一九七「バラム」に前進病院附設、一九九以降「マリニ」に前進カ九〇兵病主力に合同、カ一八軍「マリリア」工作隊、解散天々左記勤務

貝瀬土官以下
一九八「一付」
カ一八軍司令部附（三三三）
カ九〇兵病院（右を除く全員）

将校
桂君少佐以下主力
朝倉少佐以下三三
（二〇一九）

陸軍省発令

彼員先結

独立混成 第三十八旅団通信隊(カニニ〇九)略歴

年 月 日	概 歴
自昭一七、七、二五 至同三〇、一、一八	一、改編により一七師団通信隊(四一四)独立有線八八中隊(五七四)を 主力に電信一六連隊以下九部隊を以て編成され「ヌヌヌ」地区に於て旅 団正面の「タロキナ」前線との有線連絡に任じ、傍ら自活及前送用糧秣確保 に任ず 二、榮原少尉を長とする一川隊を「タリナ」地区に派遣せしめて「ヌヌヌ」旅団 との無線連絡に任せしむ 三、「タリナ」分遣隊小隊は「タリナ」防衛隊に参加し、五、一七「ヌヌヌ」に駆進 主力に合し、地区警備並に連絡の確保に任ず 四、主力は「ヌヌヌ」より「キヒリ」附近に移駐し、同地の警備に一部を以つて糧 秣資材の前送に従事す 五、終戦後「ヌヌヌ」よりカニニ旅団として「タロキナ」に收容せられ、次いで「ファウロ」 島に移駐後、復員す
昭三二、三、一〇	復 員

赤兵丸八十一隊 隊(カヒミハ六)略歴

年月日	履歴
<p>昭一八、一〇 同 一八、一一 南方転進</p>	<p>一、上海より清澄、粟田、護国丸に分乗し遂次南方に転進ハ、三時葉田丸(オ一一大隊主力)沈没し殆んど全部を失へリ 清澄、護国丸は「モーアイルランド」西北方海上に於て空爆を受け清澄丸は同島「カビエ」を至て「ラバウル」へ、護国丸(オ三三大隊)は「ボドゲン」島に前直す、オ一一大隊の残存者は編成營により人員を増加しオ一七師団直轄として「ラハウル」に殊置す</p> <p>二、連隊主力(本部二大隊)は一、二、未「ホ」島に前直し先行せるオ三三大隊を掌握す</p> <p>三、オ二大隊及オ三三大隊主力は「タロキナ」攻撃に参加す 主力は(三大隊欠「タリナ」地区警備欠二大隊は「タロキナ」作戦に列統き「タロキナ」正面のオ一線に接触し持久戦に任ず 連隊主力は「イブ」地区「タロキナ」地区に接触戦に任ずると共に「ヌヌヌ」附近の警備に従事す オ三三大隊は「タリナ」地区防衛戦に参加す</p> <p>四、連隊全力を傾注して東海岸「タロキナ」より西海岸「ヌヌヌ」に逼る オ一線「タロキナ」「イブ」正面の接触攻撃に従事しつつ「ヌヌヌ」決戦準備に傾</p>

昭三三三〇

役員

注カニ暴夷獄斗中炎獄に至る

東野ニ...

(324)

1242

第八方面軍司令部略歴

<p>期間会戦々々斗呂稱</p>	<p>自一七、二一、二六 至一八、四、三〇 南太平洋戦</p>	<p>主要作戦々々斗行動業務の概要</p> <p>一、第八方面軍は一七、二一、二六日統帥発動「ラバウル」に位置し「オーストラリア」を襲撃下に「スマル」群島「ソロモン」諸島東部「ニューギニア」諸作戦を遂行す</p> <p>二、昭一八、三、三〇「露撤退戦」へ「オーストラリア」が「露」に撤退し、ハ終了</p> <p>三、昭一八、三、三〇「露撤退戦」より「オーストラリア」軍司令部「オーストラリア」第一師団主力「ラバウル」より「ラエ」・「サラモア」地区に作戦輸送、米軍の発着する所となり上陸直前空襲により大なる損害あり</p>	<p>自一八、五、一 至一八、一〇、三〇 オーストラリア戦</p>	<p>一、軍司令部は依然「ラバウル」にありて敵師</p> <p>二、昭一八、六、三〇「米軍」及「東部」・「ニューギニア」・「ナツソ」に上陸、所謂「コロンバンガラ」作戦（南東支隊参加）「ラエ」・「サラモア」作戦決行（オーストラリア第一師団参加）</p> <p>三、昭一八、九、東部「ニューギニア」・「ニューシ」作戦（オーストラリア第一師団参加）</p> <p>四、四航空軍「ラバウル」に於て備成</p>
------------------	---	--	---	--

<p>自昭一八、二一、一 至同一九、三、三 オ三次ヒスマルク戦</p>	<p>一、一八、二一、「マールカス」作戦（カーセ師団の一部） 三、一八、二一、「ソルブ」作戦（オ六五旅団、カーセ師団の一部参加） 三、一九、二一、「アトミラルテイ」作戦 四、一九、三、「カ」号作戦（カーセ師団、オ六五旅団「ソルブ」より「ラバウル」に転進）</p>
<p>自昭一九、三、三五 至同一九、〇、三一 オ三次ヒスマルク戦</p>	<p>一、軍司令部は六月「ラバウル」より四、南嶺に進出し統帥 二、一九、三、「タロキナ」作戦（カーセ師団を以て「ホ島」「タロキナ」「米 軍基地に攻撃） 三、「ラバウル」次戦準備確立し前期より引続き「ラバウル」周辺襲撃 四、カーセ師団、オ四航空軍、オ八方面軍の隷下を脱しオ二方面軍の隷下に 入る 五、昭一九、七、二五方面軍内編成改正あり独混三、八、三、九、四、〇旅団、オ九 砲兵司令部、独混三、三、四、五、一、四、陸隊、オ六、七遊撃隊、其の他を編成 し船舶部隊、兵站関係部隊を解散す</p>

	<p>カ五次ビスマルク戦</p>	<p>自昭一九二一、二 至同二〇、四、四 カ四次ビスマルク戦</p>
	<p>前期に全じ</p>	<p>一 軍司令部は依然回南嶺に在りて「ラバウル」次戦準備 二 昭一七年「ボ」島 陸兵団へ「独混」四〇旅団「ニューアイルランド」島次戦準備 三 昭二〇、五 編成改正 独混三四、三五、混成六連隊 カ八方面軍飛行隊 其の他を備成し高射砲部隊飛行関係部隊を解散す</p>

(327)

1245

第一七師團司令部略歴

期 回 会 戦 々 斗 呂 稱	主 要 作 戦 々 斗 行 動 業 務 の 概 要
自一三 至一三 四二〇 七一七	一、才一七師團司令部編成反先結
自一三 至一三 七一八 八七	一、中支那へ前進反進駐 一、師團長交代
自一五 至一五 一〇三 一〇八	江南作戦
自一五 至一五 一一一 一一〇	漢水作戦
自一六 至一六 一一一 一一八	豫鄂作戦
自一六 至一六 一一四 一一二	一、蘇州に滯留

自一六三、一八	至一六三、二七	自一六四、一	至一六四、三一	自一六一、一	至一六一、二八	自一七一、一三〇	至一七一、二五	一七、四、一	自一七二、一四	至一七三、一五	自一八一、一五	至一八七、三一	自一八八、一	至一八九、三
一、大湖西方作戦		一、蘇州より徐州に移動及進駐		一、次に次魯郭剿天作戦		一、河作戦		一、三軍司令官の指揮に根滯す		一、茨澤作戦		一、蘇州作戦、六塘河作戦及警備		一、徐州より上海に転進、河地附近の警備

(329)

1247

至一八二四	自一八二五	至一八二五	自一八二五	至一八二五	自一八二五	至一八二五	自一八二五	至一八二五	自一八二五	至一八二五	自一八二五	至一八二五	自一八二五	至一八二五	自一八二五	至一八二五	自一八二五
一、ニコーブリアン島への転直	オニ次「ビスマルク」作賦	「ウルブ」作賦と呼稱す	「カ」号 作賦と稱す	オ三次「ビスマルク」作賦	オ四次「ビスマルク」作賦	オ五次「ビスマルク」作賦	彼員迄結										

庚 卯

歩兵第五三連隊部隊略歴

期同令戦々ヲ起稱	主要作戦々ヲ行勅業務概要
自昭一三 四、二〇	一 歩兵才五三連隊編成及完結
至昭一三 七、三〇	1. 軍令陸才二一号により昭一三、四二〇より編成に着手
	2. 同年七、一四、軍根を拜受し編成完結
	3. オ一、代団隊長 陸軍大佐 坂本未麻
自昭一三 七、三一	一 中支那への前進及進駐
至昭一三、九、三〇	
自昭一三、一〇、一	一 武漢攻略作戦
至昭一三、一、二六	
自昭一五、二	一 鉄塘江右岸作戦
至昭一五、三	
自昭一八、九、二四	オニ次、ピスマルク作戦
至昭一九、四、二八	
自昭一九、一、三、五	ツルブ 作戦
至昭一九、三、二四	

自昭一九二二、三五 至同 一九、四三八 自昭一九、四二九 至同 一九、〇三一 自昭一九二二、一 至同 二〇、四一四 徴 員	「ガ号」作戦 カ三次「ビスマルク」戦 カ四次「ビスマルク」戦 徴 員 1. 終戦後濠洲軍並督の下に東団指艦を余ら北市根に於て東団指艦を反す 2. 昭二一、三、下旬 カ三大隊より徴員を開始 五月中旬部隊の徴員輸送を完了解散せり
---	---

0081

(332)

1250

歩兵才五四連隊略歴

<p>期 間 合 戦 の 斗 召 稱</p>	<p>自 昭 一 三 四 二 〇 至 同 一 三 七 二 九</p>	<p>主 要 作 戦 々 斗 行 動 業 務 の 概 要</p>
<p>自 昭 一 三 一 〇 五</p>	<p>至 一 三 一 二 四</p>	<p>一、歩兵才五四連隊編成反完結 1. 肆令陸甲才二一号に依り昭一三、四、三〇より編成に着手し同四、二五迄結す 2. 七、一四軍旗を拜受し編成全く完了せり 3. 才一代連隊長 陸軍大佐 高橋政雄 武漢攻略戦</p>
<p>自 昭 一 五 四</p>	<p>至 一 五 四</p>	<p>一、蘇州附近の警備勤務 一蘇州より無錫へ移駐同地附近の警備勤務</p>
<p>自 昭 一 五 〇 三</p>	<p>至 一 五 〇 八</p>	<p>江 南 作 戦</p>

(333)

1251

自昭一五二一 至一五二二	漢水作戦
自昭一六一一 至一六一二	子南作戦
自昭一六三三 至一六三六	一、八一 軍司令官指揮を解か水師団命令に基き三三、一〇 前に夫々原駐地へ帰還す
自昭一六四一 至一六四二	一、二二 揚より海州へ夜駐反警備討伐概要
自昭一七二二 至一七二五	茨澤湖周辺の匪情不穏なるに鑑み浦団長指揮の下に討伐作戦に参加す
自昭一八一五 至一八一七	蘇淮作戦反警備
自昭一八二二 至一八二四	クニ次ビスマルク城
自昭一九三六 至一九三九	父ラセア附近戦斗

自昭一九、二三八	「カ」号作戦
至一九、四一五	
自昭一九、三三五	オ三次「ビスマルク」戦
至一九、一〇三二	ナマレ附近対空戦
昭一九、九、一七	オ四次「ビスマルク」戦
自昭一九二、一	
至二〇、四、一四	オ五次「ビスマルク」戦
自昭二〇、四、二五	一、終戦后隷属監督の下に東団故營を實施し西貨物「ラバウル」に於て東団生活を旨す
至二〇、八、一四	三、昭三二、四下旬「ミープリテン」船「ラバウル」港出帆同年五、五、入竹港上陸同年六月日復員解散す
復員	

混成第二連隊部隊略歴

<p>期間今載クヨリ解</p>	<p>主要作戦ヲ行勅業秀の概要</p>
<p>自昭一九、七、三五 至同一九、一〇、三一 オ三次ビスマルク戦</p>	<p>一、松連隊は昭一九、軍令陸甲六七号陸軍教練令オ三三七号に依り臨時編成（編成改正）反オ三八三次侵滯（侵襲）下令に基き混成オ二連隊の編成ヲ七、三五に完結シオ一七師団隷下に入り四野地区隊坂本兵団の指揮下に在りて「ラバウル」防衛戦ヲ計画に依り連隊戦備計画を確立シ現任秀たる北崎——赤根に在る間に右地区隊（北崎——田浦間に）オ二大隊（一中隊と歩兵砲小隊）主力及配属砲兵に小隊照空一分隊を耐す 中地区隊（田浦オ二大隊（右地区隊）に匪撃シ「マワカカ」間に）オ六中隊及歩兵砲小隊を耐す 月野地区隊（「マワカカ」オ六中隊（中地区隊）に匪撃シ——赤根（ラクネ）間に）オ三八隊（一中隊）主力を連隊本部通信中隊オ一中隊（連隊予備隊）は田浦中地区の中央高地に位置シ「マワカカ」海岸を占領せる配属砲兵一川隊を連隊直轄とし宏大なる海正面に對する防衛施設架設を更に強化計画シ数線陣地構築並に各陣地間の連絡壕有線通信隊確保の通信壕等敵水際襲滅のための水際障碍敵戦車に對する各種戦車障碍施設作業を昼夜に亘り執燧なる敵空襲下に進行施行し常時敵未攻に對し横慮なきを用したり</p>

了の外

東部ニマシヤ

其の三

<p>自昭二〇、四、一六 至 二〇、九、二 次五次ビスマルク戦</p>	<p>自昭一九一一 至 二〇、四、一五 次四次ビスマルク戦</p>
<p>七 現地自活健兵保持衛生増進には益々長期を予想し之が確保に最善の 六 戦備下令の発令ありたる際は各隊戦を失せず戦斗敵勢を挫へ遺憾な 五 假想戦備訓練を実施し戦備下令に際して遺憾をからしむ 四 幹部実技演練時に夜間訓練、視察、検閲、査閲等現地現場に徹し陣 地の強化素質の向上を期す 三 戦車凍結は各自隊に於て製作せしめ之が用法訓練に重点を指向し以 つて技術の向上を期せしむ 二 幹部実技演練時に夜間訓練、視察、検閲、査閲等現地現場に徹し陣 地の強化素質の向上を期す</p>	<p>一 大隊に配属砲兵大隊（本部と二中隊）工兵一中隊、船舶工兵二分隊 （舟艇二隻）を附すを以つて「ラバウル」周辺の要域なる田ノ浦北方海上離 るハ籽にある重要孤島たる「ワトム」島に現在の敵勢を以て「ワトム」島絶対確 保（死守）すべき現任務を履行し「ワトム」島防衛戦準備に遺憾をからしめ たり 北崎、赤根、ワトム島赤嶺山に各増設監視哨を常設し情報の蒐集に専念せ しむ 二 剛作戦教令に基き精神要素の涵養戦技向上に重点を指向し戦技訓練 の徹底を期し万遺憾をからしむ</p>

<p>自册ニ〇九三 至ニ一五三</p>	
<p>一 自ニ〇九三、至ニ一五三、セラハウル駐留 二 昭三二、五、八、内地帰還のため「ラバウル」港出帆同月三十一日、宇島へ(似島)港に上陸同月三十二日、彼島完結</p>	<p>効力をなし、遺憾なきを期したり</p>

昭和三十三年

混成第六連隊略歴

<p>期向合戦々々斗忌稱</p>	<p>主要作戦々々斗行勅業務の概要</p>
<p>自昭ニ〇四一五 至同ニ〇八一四</p>	<p>昭ニ〇四一五、皇令陸甲才六七号中改正に依り編成完結 一、対空艇及陸正面戦斗準備 「コープリテン」島「パウル」砲臺に於て敵空艇部隊及陸面によ來攻する敵に 対し集積を期し之に作戦を準備す（築城、訓練、現地自活、保健） 陸隊長 大 佐 永井 元 以下凡八七名 カ一大隊は鑓系にて対空艇及陸正面戦斗部隊 大隊長 大 尉 野澤正章 以下四三七名 カ一中隊 中隊長 大 尉 天野久弥 以下一三〇名 カ二中隊 中隊長 大 尉 山田文夫 以下一三〇名 カ三中队 中隊長 大 尉 堀 勲 以下一三〇名 カニ大隊は「タキレン」にて対空艇及陸正面戦斗部隊 大隊長 少 佐 川島吉印 以下四三七名 カ四中队 中隊長 大 尉 田尻晴彦 以下一三〇名 カ五中队 中隊長 大 尉 佐藤 勇 以下一三〇名 カ六中队 中隊長 大 尉 黒木 勝 以下一三〇名</p>

4
の
外

東
郷
三
五
郎
少
将

英
三

	復
	員 終戦后軍艦普の下に東団故告を其施鏡承に於て東団生活を以す 昭三、四下旬ニューヨーク島「ラバウル」出帆同月三九日浦安港上陸五一復員 解除す

第十七師団捜索隊部隊略歴

<p>期向会戦マ斗呂稱</p>	<p>主要 作 戦 マ 斗 行 動 業 務 の 概 要</p>	
<p>自昭一九二七五 至同一九一〇三二 オニヌスマルク戦</p>	<p>昭一九年七月二十五日捜索オニヌ隊オニヌ隊主力と生存者とを以て新にオニヌ師団捜索隊（軍令陸甲オニヌ六七号に據る）を編成しマツサバ附近の警備の任に就く</p> <p>一「マツサバ」附近の警備 捜索隊長 陸軍大尉 白井 兵衛 以下九五名 配属部隊左の如し 歩兵オニヌ三連隊の一ヶ隊 歩兵オニヌ四連隊の船工分隊 オニヌ七師団通信隊の二ヶ分隊 二「マツサバ」附近の警備並に作戦準備</p> <p>捜索隊は「ラバウル」要域の進駐部隊として前任者を継行す 捜索隊長 陸軍中尉 今川 常雄 （昭一九二二四、白井大尉師団司令部へ転出）</p>	<p>戦病死一員</p>

自昭二〇、四一五
至同二〇、八二四
オ五次エマルク賦

後
員

「マツサバ」附近の警備並作戦準備

部隊は前任務を継行す

捜索隊長 陸軍中尉

介川 常 班

終戦直後陸軍の監督の下に東田故宮を築造し東田生活へラバ
ヤル「西貿易店」に於て

昭二一、四上旬ニヨブリテン島ラバウル出帆同二一日大竹港上
陸同二一日後員解散せり

野砲兵第三連隊部政略歴

野砲兵第三連隊

期開会戦々斗呂稱	主要作戦々斗行動業務の概要
自昭一三八、一 至昭一三九三。	一編成及史略 一、中支那への前進及駐、警備
自昭一三一〇、一 至昭一五九三。	武漢攻略作戦
自昭一五〇、三 至昭一五〇、一八	江 南 作 戦
自昭一五一、一 至昭一五二、一。	漢 水 作 戦
自昭一六一、一 至昭一六二、八	子 南 作 戦

(343)

1261

自昭一八〇。四一六 至同二〇八。一四	オ五次ビスマルク戦
自昭一九二。二一 至同二〇四。二五	オ四次ビスマルク戦
自昭一九四。三九 至同一九一。三〇	オ三次ビスマルク戦
自昭一九一。〇三 至同一九四。〇八	オ二次ビスマルク戦 ビルマ群島度駐作戦 「カ号」作戦 「タラセア」作戦 「カ号」作戦
自昭一九二。一一 至同一九一。〇〇	一、オ二次魯南剿共作戦 二、瀾河作戦 三、洪澤作戦
自昭一九一。〇〇 至同一九四。〇八	オ二次ビスマルク戦

5
の
外

東
部

ニ
ユ
ー
ロ
キ
ア

東

	昭三、五、一六
	彼員

(345)

1263

五 兵 第 十 七 連 隊

期 間 会 戦 ヲ 斗 呂 稱	主 要 作 戦 ヲ 斗 行 動 業 務 の 概 要
自 昭 一 三 四 二 〇 至 同 一 三 八 九	編 成 完 結 軍 令 陸 甲 〇 二 一 号 に 基 き 四 二 〇 編 成 に 着 き し 同 七 一 五 編 成 完 結 す 師 団 令 令 に 基 き 同 年 八 三 号 品 悉 出 帆 入 六 上 海 上 陸 後 八 九 新 駐 地 蘇 州 着
自 昭 一 三 八 九 至 同 一 六 四 三 〇	蘇 州 附 近 の 討 伐 並 に 警 備
昭 一 三 自 一 〇 五 至 一 三 二 六	宣 大 附 近 の 戦 斗
昭 一 三 自 一 〇 五 至 一 三 二 六	襄 攻 略 戦
昭 一 三 自 一 一 〇 至 一 二 二 七	無 錫 江 陰 景 塘 地 区 の 討 伐
昭 一 四 自 五 四 至 五 七	和 梅 鎮 附 近 の 戦 斗
昭 一 四 自 五 三 六 至 六 七	遼 寧 鎮 附 近 戦 斗 並 に 同 地 附 近 の 陣 地 構 築

昭一四 自六一七 至七一一	昭一四 自一〇三二 至一〇三一	自昭一四 一一二七 至同 一一一一	昭一五 自一一三三 至一一三一	昭一五 自二二三八 至二二二七	昭一五 自二二九 至二二九	昭一五 自四二〇 至五二〇	昭一五 自五二九 至八二五	昭一五 自一〇四 至一〇三五
高橋鎮附近の戦斗	彦里鎮作戦	貴湯貴地作戦	泰興附近の戦斗	鉄塘江苟作戦	孫湖西側地区の陣地構築並に孫高村連鎮附近の戦斗	春季虎豹の作戦	宜昌の作戦	江苟作戦

6
の外

表
部
三
一
四
五
六

其
の
三

昭一七 至一三六	昭一七 至一四三	昭一七 至一四五	昭一七 至一四一	昭一七 至一四七	昭一六 至一四九	昭一六 至一五〇	昭一六 至一五六	昭一六 至一五七	昭一六 至一五八	昭一五 至一六一	昭一五 至一六二
茨澤作賦	沂嶺作賦	渦河作賦	焉河北岸地区討伐	沂河作賦	河鞠(鄭州皮略)作賦	徐州附近の討伐並管備	太湖西方作賦	漢水子鞠作賦			

昭一七、自一、四 至二、三、六	昭一八、自二、七 至三、一、五	昭一八、自三、一、六 至四、七	自昭一八、九、三、四 至同三、〇、八、一、五	昭一八、自九、三、四 至二、一、二、三	自昭一八、二、一 至同一九、三、二、四	昭一九、自三、三、五 至一、〇、三、一	自昭一九、二、一 至同二、〇、四、一、五	自昭二〇、四、一、六 至同二、〇、八、一、五
豊碓銅作軼	蘇荏作軼	大塘河作軼	防衛勸務	海上輸送	才二次ビスマルク軼、カ号作軼を含む	才三次ビスマルク軼、カ号作軼を含む	才四次ビスマルク軼	才五次ビスマルク軼

復

員

終、軟市、濠軍監督の下に東団散營を命ぜられ、東団生活をなす
昭三、四、下旬、ニューヨークに在り、バウル出帆同三。日浦、莫入港、五、復員
解散す

(350)

1268